

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立末広小学校	学校No.	26
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>さまざまな人が暮らしている地域社会で「ともに生きる」明るい社会をみんなの手で作ることが課題となっている。そこで、福祉実践教室を行うことで、児童が障害に関する体験交流を通して、福祉との関わりを日常的な実践活動へをつなげていけるようにしたい。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>障害等の理解を深めるために、障害のある方の話を聞いたり、生活に触れたりできるような活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験 ・手話体験 ・点字体験 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>福祉実践教室を行ったことで、児童一人一人が障害について理解を深めるとともに、相手の立場になって考え、行動することについて考えることができた。これらの学びを日常生活の中で実践できるように働きかけていきたい。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立西成東小学校	学校No.	27
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>本校は、社会福祉への関心と理解を深め、様々な体験活動や交流を通して、『福祉の心』を育てることをねらいとし、主に5年生の「総合的な学習の時間」の活動を中心に教育活動を進めている。</p> <p>5年生では、「ふ…ふだんの」「く…くらしの」「し…しあわせ」という、福祉の本質について理解を深め、学校、地域、家庭で自分にできることを追求し、実践する姿勢を養う目標を掲げ、実践に取り組んだ。</p> <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>（1）福祉に関する事前学習</p> <p>社会福祉協議会の方をお招きして、福祉に関する事前学習を行った。児童は、福祉＝一部の人のためのものではないこと。福祉が充実することは、みんなの幸せにつながるのだと知ることができた。事前学習をすることで、体験活動を行う意義について、児童が考えるきっかけとなった。</p> <p>（2）福祉体験</p> <p>本年度は、講師の方を招いて福祉実践教室を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車いす体験・・・車いすに乗った相手を移動させたり、自分が前進・方向転換したりする活動を行った。 ・ガイドヘルプ体験・・・目の不自由な人がどんなことに困るのか考えたうえで、アイマスクをする立場とガイドヘルプをする立場に分かれて体験をした。 目の見えないことの怖さやガイドヘルプの難しさ・大切さを学ぶことができた。 ・手話体験・・・生活で困ることやできる手助けについて学ぶことができた。手話を体験し、耳の不自由な人とのコミュニケーションの仕方を学ぶことができた。 ・点字体験・・・点字の読み書きを行いながら、講師や周りの友人と交流を行った。点字への理解が深まった。 <p>（3）事後学習</p> <p>社会福祉協議会の方をお招きして、福祉の学習を振り返る時間をつくった。児童は、福祉について学んだことを紙にまとめることで、福祉について振り返ることができた。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>実際に体験をすることで、日常生活において不自由な点について、実感させることができたのではないかと思う。今後は、高齢者福祉など、より範囲を広げて、児童の学びを深めていきたいと感じた。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立今伊勢西小学校	学校No.	28
-------	-------------	-------	----

1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

(1) 目標

- ・障害のある人々との交流を通して、お互いの良さを認め合い、心豊かな生活が送れるようにする。
- ・共生社会の構築に対し、主体的にかかわることのできる児童の育成を図る。

(2) 計画

- ・福祉実践教室 ・福祉実践教室の事前・事後指導 ・あいさつ運動
- ・スポーツフェスタや学校祭への高齢者の招待 ・ベルマーク等の収集活動
- ・各種募金活動

(3) 推進体制

- ・計画に該当する学年または児童会・委員会で、計画的具体的に推進する。
- ・4年生の総合的な学習において、「福祉」について学び、理解を深める。また、4年生にて、福祉実践教室を実施する。

2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

○ 福祉実践教室
4年生が手話体験・高齢者疑似体験・ガイドヘルプの3つの講座に分かれて体験活動を行い、障害のある方々への理解を深めることができた。

(1) 手話体験
耳が聞こえない方の体験談を聞き、手話や指文字などでコミュニケーションをとることを体験した。障がいのある方とかわる活動や体験を通して、聴覚障がいへの理解を深めるとともに、共生への思いを育成することができた。

(2) 高齢者疑似体験
体に重りをつけたり、視界が悪くなるメガネをつけたりして階段の上り下りをする活動を行った。活動を通して、高齢者の方々の体の動かしにくさを実感し、高齢者の方々への配慮と支援が必要であるという思いを持つことができた。

(3) ガイドヘルプ
アイマスクや白杖を使い、視覚障害者の方々の疑似体験やガイドヘルプの体験を行った。目が見えないととても怖いと感じるとともに、目が見えない人のために指示を出すことの大変さも学ぶことができた。

(4) 新聞作り
福祉実践教室で学んだことをもとに、障害のある方々の扱う白杖や車いす、盲導犬について調べ学習を行い、新聞にまとめた。まちで見かけた際に、手助けをしたいという感想を書く児童が多かった。

3. 福祉教育の成果と今後の課題

様々な活動を通して、児童は福祉の必要性や大切さ、さらに福祉に携わる人々への気持ちや課題に対して理解を深めることができた。共生社会の一員としての自覚が高まり、障害のある方々へ優しい手を差し伸べようとする実践意欲の向上が見られた。今後も、道徳や総合的な学習の授業で人を思いやる心を育んでいきたい。

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。

令和5年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立葉栗北小学校	学校No.	29
-------	------------	-------	----

1 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）

本校は、教育目標「伸びよ たくましく」の精神を学校教育の全面に生かし、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成をめざし、日々の教育活動に取り組んでいる。

福祉教育では、みんなが住みよい社会にするために、自分たちにできることは何かを考え、進んで地域社会に奉仕しようとする「ともに生きる」心を育てることを目標とした。

2 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）

（1）福祉実践教室（5年生）

車椅子体験、高齢者疑似体験、ガイドヘルプ、手話に分かれて体験をした。体験を通して、子どもたちは、それぞれの福祉を必要としている方の苦労を知るとともに、ボランティアの重要性や助け合うことの大切さを実感することができた。



（2）車いすバスケットボール体験（5年生）

「あすチャレ！スクール」（主催：日本財団パラスポーツサポートセンター）プログラムの車いすバスケットボール体験を行った。パラリンピック男子車いすバスケットボール元日本代表の講師の方から説明や実演を受けた後、代表の児童が車いすバスケットボールの試合を行った。なかなか思うように車いすを操作することができず苦戦していたが、応援する子たちも一体となってゲームを楽しんでいた。子どもたちは、体験を通して障害に対する理解を深め、新たな気づきを得ることができた。



（3）学習発表会（5年生）

「ともに生きる」をテーマに、5年生が発表を行った。みんなが幸せな暮らしとはどういうことかを考え、各自で調べたことや体験したことを、多くの保護者の前で発表することができた。また、発表の資料作成のために、調べたりまとめたりする活動の中で、身近な暮らしの中にあるさまざまな工夫を学ぶことができた。



（4）赤い羽根、緑の羽根の募金活動

朝の登校時に、児童会や園芸委員会の児童が中心になって募金活動を行った。募金の意義についての呼びかけもあり、多くの児童が募金に協力していた。募金活動を通して、一人一人にできることはわずかでも、積み重なれば大きな結果が得られるということや、自分の行動が、誰かの役に立つということを実感することができた。



3 福祉教育の成果と今後の課題

福祉教育には、それぞれの学年が総合的な学習の時間などを使って取り組んでいる。これらの学習を通して、子どもたちの心に芽吹いた福祉の意識をさらに高めていくためにも、これからも相手との温かいかわり方を体験を通して学ぶ機会をもち、進んで地域社会に奉仕しようという心を育てていきたい。

令和 5 年度 一宮市社会福祉推進校実践活動報告書

学 校 名	一宮市立大和南小学校	学校 No.	30
<p>1. 福祉教育の取り組み（目標・計画・推進体制）</p> <p>ア 目標 本校は、「知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい児童を育成する」を目標に掲げ、『自立できる子』を目指し日々の教育活動に取り組んでいる。</p> <p>イ 計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 福祉実践教室（4年生） ② 「発見！かっこいいカード」の取り組み（通年） ③ ベルマーク収集活動（7月・12月・2月） ④ 異学年交流【なかよしペア活動】（随時） ⑤ 人権週間（12月） <p>2. 福祉教育の具体的活動の内容（活動の記録）</p> <p>ア 福祉実践教室 4年生が、福祉実践教室での経験をもとに、総合的な学習の時間に福祉についての調べ学習を行い、調べ、まとめた内容を学習発表会でそれぞれが発表した。</p> <p>イ 「発見！かっこいいカード」の取り組み 『自立できる子』の足がかりとなる「自己肯定感」の育成を目指し、自分や人のよいところ（「かっこよさ」）を自分で見つけ、周りの人と認め合う活動を行った。</p> <p>ウ 異学年交流【なかよしペア活動】 6年生と1年生、5年生と3年生、4年生と2年生をペア学年として、週に1回、中間放課・昼放課に交流活動を行った。また、一鉢運動に取り組み、11月に卒業式に向けてパンジーを植えた。 わくわく交流会を2学期、3学期に1回ずつ実施した。ペアのグループで校内クイズラリーに挑戦した。また、6年生を送る会を3月に体育館で実施する予定である。</p> <p>エ 人権週間 人権に関する校長の講話、各学級で考えた人権スローガンの発表を行った。また、人権擁護委員の方をお招きし、低学年、高学年に分けて人権教室を実施した。その様子は、学校のWebページに掲載した。</p> <p>3. 福祉教育の成果と今後の課題</p> <p>今年度も4年生で福祉実践教室を行うことができた。実際に体験をすることで、障害のある方への配慮の意識が高まっていた。</p> <p>人権擁護委員を招いて人権教室を実施したが、発達段階にあった動画や講話であり、全ての児童が人権について考え、友達の大切さ、思いやり、命の尊さ等について考えを深めることができた。</p> <p>「発見！かっこいいカード」の取り組みにより、お互いの良いところを見つけ合い、児童の自己肯定感を高めることができた。</p> <p>今後も、福祉実践教室や人権教室のように、専門機関と連携をした児童の心に響く活動を行っていきたい。</p> <p>代表委員会の仕事の一つとしてベルマーク運動に取り組んできたが、委員である代議員の活動の多くがベルマークの仕分けや張り付けになってしまっている。本来代議員がすべき「あいさつ運動」「廊下歩行運動」やペア活動の企画等、学校のリーダーとしての活動や話し合いに時間を割くために、今後は、ベルマーク運動への参加を検討すべきと考えている。</p>			

※上記内容を含むものであれば、本報告書の様式は問いません。

※当会ウェブサイトに掲載させていただきます。また、可能な限り各校でウェブサイト等に掲載してください。